江戸川総合人生大学の情報紙

ひと あい えどがわ ～人と地域をつなぐ～

No.44
発行日/2021.7.1
創刊日/2007.4.10

EDOGAWA SOGO JINSEI DAIGAKU

今こそ前へ！

「北野学長（パネル）を囲んで」（情報紙編集委員）

Contents

表紙：大学祭案内・新入生募集 / 2～5ページ：各クラスから
裏表紙：新コーナー「交差点」・同窓会の窓

※情報紙内の写真は撮影時のみマスクを外す、または新型コロナ禍以前の写真を使っています。

江戸川総合人生大学
第15回
大学祭
ONLINE

開催期間　8月1日～8月31日

今年の大学祭はオンライン！
学生によるステージや展示は
特設ページにてご覧いただけます！

やってみたいがカタチになる。

江戸川総合人生大学
新入生募集
第17期生

願書受付　7月1日（木）～
8月13日（金）

人生大学の魅力や授業内容
出願方法など、詳しくは
人生大学ホームページで！

人生大学

地域のために自分の力を活かしてみたい。人生大学はそんな方を応援するために
江戸川区が開設した大学です。（＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。）
https://www.sougou-jinsei-daigaku.net/

江戸川まちづくり学科

区内に出かけ、まちの魅力や文化を探る「えどがわの種探し」、
色々なワークショップ手法の演習等、楽しく実践的に学んでいきます。

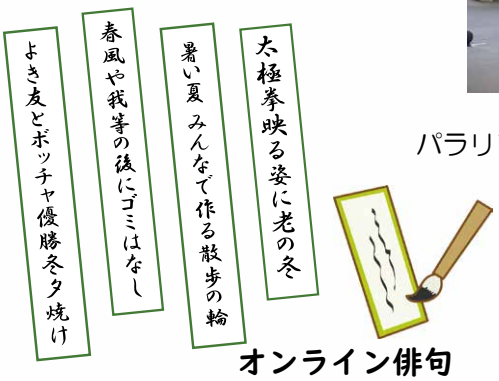
15期

まちづくり学科では、授業においてグループで活動することが多く、その影響からか授業外でも様々な形でグループ活動が行われ、仲間作りが活発です。

新川清掃
「新川げんき会」に入会して
活動しています

ボッチャ
パラリンピックの競技を体験しています

太極拳
健康のため太極拳を学んでいます



オンライン俳句
体だけでなく、頭を使った活動もやっています

まちあるき
コロナ禍で最近は活動休止中ですが、
東京都内を歩き回っています

16期

私たちは、クラスでスローガンを掲げ、ひとり一人が活動テーマを持って楽しみながら学んでおります。

スローガン：みんなで元気に生きるまちづくり

地域で見守れる仕組みづくりを推進する【紺野さん】
急増する孤独死は人ごとではない！

現実を多くの人に知ってもらいたい！私は52歳で単身の弟の孤独死がきっかけでLINEを使った「見守りサービス」を作りました。
一人ひとりへの注意喚起は勿論であるが、社会問題としての孤独（孤立）死への対応や対策は、新型コロナウイルス同様に国や行政が行う社会になることを目指し、使命感を持って活動しております。

（クラスのメンバー）

スポーツ界へ恩返しをされている最年長の【松瀬さん】
高齢者のフレイル傾向をいかしてよい方向にしていくか！

私はずっとスポーツに関わる仕事をしていました。おかげさまで、今でも元気に生活できているので、高齢者の仲間と一緒にウォーキングを楽しんでおります。人生大学では「介護」も学んでいました。

超活動的でいろんな所に行くのが大好きな【坂入さん】
久美子の美味しいもの探訪

活動的だった私は、自宅で大ケガをしたことがきっかけで、介護状態となりました。人生大学では「介護」を学び、次に「まちづくり」と。いろいろな刺激を受けながら、元気に楽しんでおります。

江戸川を第２のふるさとにしたい最年少の【江嶋さん】
［空き家ZERO］あつまる居場所づくりに挑戦！

私は仕事の関係で福岡から江戸川へ移り住み15年が経ちました。おじいちゃん、おばあちゃんっ子だった私は、人生大学のメンバーにも支えられながら、夢の実現にむけてチャレンジしております。

国際コミュニティ学科

地域の在住外国人をとりまく言語・生活環境の現状、課題などを学びます。
多文化に対しても理解を深め、共生のあり方についても考えていきます。

15期

「学びの思い出」

15期生の学びは、１年次で、アフリカで誕生した現生人類が日本列島まで辿った遥かな旅を追って、「日本人」とその「文化」の成立ちや変遷を振り返りながらスタートしました。その一方で、韓国、中国、インドを母国として日本に長く住む方々から、それぞれの文化や考え方などを聴き、文化の違いを実感しました。

また、外国人を巡る現状や課題、ボランティアとは何か等々の講義に加え、区内のインド人学校などの見学、フィールドワークの体験など多岐に亘りました。

２年次になると、外国人問題について更に深く考えつつ、プロジェクトの企画が重点となりました。取り組みたい活動や問題意識が共通する者でグループを形成し、それぞれどのように活動していくべきかなど討議を重ねて、卒業後のボランティア活動に活かそうというものでした。この間、イスラム教について学び、代々木のモスク見学という珍しい体験もありました。

しかし何と言っても一番の思い出は、仲間と出会い、一緒に学ぶ楽しさ、喜びを味わったことです。今後も食事会やゴルフを一緒に楽しんでいくつもりです。

（松村　知勝）

16期

”国際コミュニティ学科＝「外国語ができる人」が集うところ”ではありません！

江戸川区で、日本語で、さまざまな国の出身の方たちとともに、多文化共生の社会の実現をめざし、クラス一同頑張っています。

日本語ボランティアサークルでの課外活動

授業でインドのインターナショナルスクールを見学

授業では、専門科目はもとより、学長・区長以下精鋭揃いの講師陣から江戸川区の現状と課題を学ぶ必修科目「えどがわ入門」（今まで知らなかった江戸川区を知りました）、選択科目では相手との円滑・円満な人間関係を作ることを学ぶ「カウンセリングの基礎」（人生相談とカウンセリングって全然違うんです）などを履修します。

「学ぶ」ことでの発見や気づきは、いくつになっても新鮮で楽しいですよ。

「放課後」は、クラスメートとの親交を深めたり、卒業生が立ち上げ・活動する各種ボランティア活動に参加したりと、久しぶりの学生生活をエンジョイしています。

都内の異国 東京ジャーミイに有志で

子育てささえあい学科

今日の子どもを理解するとともに、家庭や学校、地域など現代の子育て環境の特徴と子育てとの関係について、様々な角度から考察します。

15期

子育ての環境変化、引きこもりや不登校、子どもの貧困、いじめ、食、居場所、虐待、親が抱える悩みなどの具体的なテーマをそれぞれの第一人者からお話を伺います。
また、仲間と一緒にディスカッションをしたり、最前線の現場を訪ねたり、楽しく実践に繋げられる授業が満載です！

どの世代でも役に立つお話が聞けます

ディスカッションで仲間と学習を深めます

共育プラザを訪問して学びます

大学祭で学習成果を発表します

自ら演じて子育ての問題を考えます

保育園で子ども達と触れ合います

16期

子育てとの両立を図る石井 野枝美さんにお聞きしました

江戸川区で生まれ、江戸川区で育ち、昨年の６月に三男を出産し、三人の子育てに日々奮闘しています。江戸川区は、子育て支援がとても充実していて、妊娠中から現在も大変助けていただいています。

さらにこの大学では、地域の方が積極的に「子育ての支え合い」について学び、サポーターになろうとしてくださっています。

講義の中では、30代～80代までの多様な世代の意見が飛び交い、毎回とても刺激的です。

産後はオンラインで参加し、時にはミルクをあげながら受講していました。コロナ禍で、人との交流も制限される中、地域でこんなにあたたかく子育てを応援してくれている人の輪があるこの大学で、今も変わらずみなさんと学ぶことができ、幸せに思います。

私は友人に今、80代までの同級生が居ると誇らしげに話しています。そして入学のきっかけとなった、子ども食堂で頑張っておられる大学の先輩に心から感謝しています。

介護・健康学科

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるために
自分の住む地域の課題や解決策を考えていきます。

15期

1年次に学んだ福祉関係知識を地域で活かしていくための実践的学び・学外研修で視野が広がりました。

村田学科長から研究発表の講評

①グループ研究として、江戸川区の地域特性を探求し、社会資源マップを作成、発表しました。
②介護施設の研修では、特別養護老人ホーム内で施設の説明・見学会が行われ、個々人の生活観を尊重するユニットケアを理解できました。
③地域支え活動の拠点「なごみの家」で説明・見学会が行われ、地域包括ケアシステムの活動を理解できました。

地域資源の研究発表

特別養護老人ホーム

幅広い年齢層が集い学び合った貴重な経験から、クラスメイトの声として

①ボランティアを続け地域貢献に取り組みたい
②人々の交流の大切さを実感
③これからの人生を元気で心穏やかに生きる秘訣を学んだ等

挙がっております。

なごみの家

16期

— 介護の「今」を知り、「これから」を考えよう！！—

自助・共助・公助で生き抜く生涯の実現に向けて、仲間と共に学びを重ねています。
ここには人生100年時代を生きる知恵がグッと詰まっています。

「人生会議ノート（エンディングノート）」を書いて自分の気持ちと向き合えた。

フレイル（介護が必要となる前段階）予防にウォーキングや片足1分立ちを日課にした。

コロナ禍で人との交流が途絶えた時、共に学ぶ場所や仲間がいる大切さを再認識した。

成年後見制度って？『制度の内容をもっと聞きたい』と知識欲が増えた。

発行日／2021年（令和3年）7月1日　発行／江戸川総合人生大学　〒133-0061　東京都江戸川区篠崎町7-20-19　しのざき文化プラザ

交差点

多様性に寄り添うSDGsな授業と多様性との共生社会に向けて

江戸川区は2019年に「パートナーシップ制度」が始まり、昨年は「人権・男女共同参画推進センター」ができ、今年は「SDGs推進部」が発足しました。

それらが影響しているのか、今期の授業を受けて5年前に国際コミュニティ学科に在籍していた時と大きく違う印象を受けました。それは最低でも3つの講座で「LGBTQ」という言葉と、多くの授業で「SDGs」という言葉を聞いた事です。江戸川区独特の在住外国人に寄り添った国際コミュニティ学科の授業、あらゆる障害者に寄り添った介護・健康学科があり、多様性に寄り添おうという人生大学らしさが更に増したような気がしました。

北野学長の「LGBTQは好きとか嫌いとかではなく、共存共栄していきましょう」というようなお言葉が印象的でした。

最近「江戸川区に住んでるよ」と伝えてくれる人も周りに増えました。自身があらゆる多様性の交差性を持っています。障害を持つ息子が行ける中学を求めて名古屋から約16年前に、福祉に手厚いと聞いた江戸川区一択で引っ越してきました。自分の周りにも色んな多様性の人たちが江戸川区に住んでいます。

江戸川区があらゆる多様性のALLY（理解者）となるよう大学からもALLYが増えてくれたらいいなと思いました。

（子育てささえあい学科16期　大島 瑠可）

我の他、全て師なり

51歳の時、突然光を失い、「これからの人生は大きく変わるのかな？」と思いましたが、今では、人それぞれの本質というのは持って生まれたものなのかなと思っています。

変わったことと言えば、色が全く見えないということ。けれども、見えない網膜に映し出されるのは見えていた時よりも美しい色彩・・・。家族はもとより友人・知人たちの、暖かくそして懸命な、言葉による描写で浮かび上がってきたものです。

以前在籍していた国際コミュニティ学科5期での学びと出会いは、それはそれは私の背中を押してくれたものでした。あの時は、外国人力士について調べました。相撲部屋を訪問したり、相撲ゆかりの人にお会いしたり・・・と。

もう一度大学へ行こうと思ったのもその時からです。

ある日、そう、3年程前のことだったでしょうか、『我の他、全て師なり』という言葉を聞いた時、「そうか、私は、地球という学校の中にいて、人や、風や、鳥や、草や、今まで関わってきたことや、これから関わっていくことが、みんな私に何かを教えてくれる先生なんだなぁ。」と思いました。

だから私は今、人生大学という場所で学んでいるんでしょう。卒業するまで、しっかりと通いとおします。

（まちづくり学科16期　藤原 美子）

同窓会の窓

今年はジャズの巨匠ルイ・アームストロング生誕120年かつ没後50年。彼の代表曲は晩年の「What a Wonderful World（この素晴らしき世界）」。ベトナム戦争などで混迷していた世相に平和と明るさを取戻そうとの思いで作られた曲で、世界中で大ヒットしました。そこに歌われているのは、普通のありふれた日々から得られる平和と幸福。独特の歌声を聴くと心が落ち着きます。

昨年来、コロナ禍のために世界中で困難な状況が続いています。今こそ心の安らぎが必要な時だと思います。

私達同窓会も、会員同士の交流の場を十分に設けることができず、活動がままなりませんが、そんな中においてもホームページ・SNSや機関紙「同窓会だより」を通じて、様々な情報をできるだけ多く発信することを心がけています。

「繋がること」による安心と、そして「Wonderful World」が1日も早く戻ることを願って。

江戸川総合人生大学同窓会
会長　前田 直義

編集後記

第44号をお届けします。今号は在校生が所属する学科を自由に紹介しています。新しく、自由投稿スペース「交差点」を設け子育て16期の大島さん、まち16期の藤原さんの投稿を掲載しています。人生は学びの場、地球に存在する全てのもの（人、自然、動物）と関わってきた中で学ばせてもらっている。その恩恵は人間平等に受けられるとのメッセージを受け取りましたが、いかがでしょうか？「交差点」の名のとおりこのスペースが双方コミュニケーションの場（在校生と区民の方々）となればと思っています。

副編集長　小越 美子（国際15期）

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

【15期生】　谷村 健次郎、磐前 知雄（まち）
小越 美子、松村 知勝（国際）
赤松 卓人、涌井 美智代（子育て）
佐々木 政幸、菅原 加津子（介護）

【16期生】　江嶋 裕二、坂入 久美子（まち）
新田 隆、宮崎 真理子（国際）
大島 瑠可、若松 信行（子育て）
伊香 三省、米村 康子（介護）

●編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで　電話：03-3676-9075／FAX: 03-3676-6545